



# こんな仕事もあったんだ

朝日新聞社と朝日学生新聞社はこの夏、「おしごと年鑑」を共同発行しました。9冊目となる今年は、120の企業・団体の協力で、さまざまな仕事や働く人々を紹介。全国の小中学校約3万校に寄贈するとともに、全国の書店で購入できる市販版も発売しました。「おしごと年鑑」でキャリア教育に取り組み学校を紹介します。

サイトに遊びに来てね！

おしごと年鑑 検索

電子ブック版

おしごと年鑑 2024

紙の本のようにスラスラ読める！

ウェブサイトで2024年の電子ブック版を公開中！縦スクロールで読める2024年版は順次公開しています。

書籍

おしごと年鑑 2024

豊富な図解や写真、わかりやすい説明が好評です。書店などで購入できる市販版もあります(写真左)。

**全国の書店で販売中**

「おしごと年鑑2024」は全国の書店でも販売中です。内容はウェブサイトで読むこともできます。  
▽2200円(税込み) / A4オールカラー・320頁 / 発売元・朝日新聞出版

## 函館市立桔梗中(北海道)

北海道の函館市立桔梗中学校は昨年度、2年生(当時)18人が「おしごと年鑑」を使って「企業紹介プレゼン大会」に取り組んだ。「高校より先の将来についても興味をもってほしい」(鳥海千都子教諭)との思いから企画した。

キャリア教育を行う「総合的な学習の時間」は年間31コマ。そのうち計19コマをプレゼン大会に充てた。

プレゼンに向けた準備は、まずは「おしごと年鑑」に掲載された100以上の企業・団体のなかから、自分が興味を持ち、紹介したいと思うものを探すとから始めた。生徒たちが選んだ企業は鹿島建設、セコム、ギンビスなど業種もさまざまだ。企業が決めれば、プレゼンの資料作りに取りかかる。「おしごと年鑑」に加えて、企業の公式サイトも調べ、仕事内容や歴

## 「年鑑」でプレゼン大会 進路が具体的に

史、社会貢献活動などについて数枚のスライドにまとめた。生徒たちはリハーサルを重ねたあと、まずはクラスごとに保護者の参観日で発表。さらに代表約20人を選出。代表は今年1月、体育館で学年全員を前に発表した。

「A、B、Cの(卓球の)ラケットで一番値段の高いものはどれでしょう」



卓球用具メーカーのタマスについてプレゼンする嶋田一臣さん  
|| 函館市立桔梗中学校提供

見る人の興味を引きつけよう。と、こんなクイズも用意した。自身も卓球部に所属しており、今春には全国大会に出場した実力。最も興味を持てる企業として選んだのがタマスだった。会社の歴史も公式サイトで調べ、創業期の写真もたくさん盛り込んで紹介した。

嶋田さんは両親が教師で、何となく教師になる将来を思い描いていた。しかし、タマスという企業を知り、「大好きな卓球を支える仕事もあるんだ、と初めて意識した」。

この春に出場した全国大会の会場でも、自然とタマスのブランド「バタフライ」のブースが目にとまった。「卓球にかかわる仕事をしたい」。プレゼンを経験して、具体的な自分の進路が見えてきた。

プレゼン大会の様子は動画にして、企業側にも見てもらい、企業からもコメントが寄せられた。

鳥海教諭は「地方にいと、都市部と違って、さまざまな仕事を知る機会が少ない。幅広い仕事を知られる『おしごと年鑑』は、どこに住んでいても、キャリア教育がかなう教材です」と話す。  
(柴田菜々子)